

人材育成に関する目的

我が国は、科学技術の創造により国運の発展と国際貢献を目指しており、科学技術発展の基礎と成る理学は、益々その重要性を増して行く。理学部第二部では、理念である本学創設以来の「理学の普及と実力主義」に向かって、理学部第一部と緊密に連携を取りながら、夜間の時間帯に十分な基礎学力の上に高度な専門知識を身に付け、豊かな教養に裏打ちされた強い倫理観と豊かな人間性を持った人材を育成する。

化学科は、物質の本質についての探究と、その成果を応用して新たな有用物質を創製し、幅広い分野の基幹をなしている化学分野の進学を指向し、これを夜間に求める学生及び社会人に、伝統的な「実力主義」のもと、基礎から最先端の化学について充実した質の高い専門教育を行うとともに、先端的化学研究を推進し、様々な分野に対応できる意欲と実力ある人材を育成する。

カリキュラム・ポリシー

1. 化学は物質に関するあらゆる知識を基に新しい物質を作っていく学問である。化学の知識を使えば分子の性質を理解することができ、さらにその成果を応用して新たな物質を創生することもできる。科学技術における幅広い分野の基幹をなす学問である。このため、化学の基礎に関する正しい理解と、幅広い応用分野に関する広い知識を持った人材を育成する。
2. 真の実力を身に付けた学生のみを卒業させる「実力主義」の伝統を堅持し、厳格な教育課程を実施する。段階的な知識の修得を認めるための「一般教養科目」、各専門分野の基礎となる「基礎科目」及び「専門科目（必修）」を専門分野に応じた進級に必要な能力を養うための「専門科目（選択）」を体系的に配置する。
3. 化学の本質を理解するために必要な物理化学・無機化学・有機化学に重点を置いて「基礎科目」をおき、これらの履修を1年次から2年次への進級に必要な条件（関門科目）とする。
4. 実験実習を重視し、化学の実験操作を実践的に習得させ、レポート作成やプレゼンテーションを行うことにより、自らの考えや意見を他者に正確に伝える能力およびコミュニケーション能力を培う。また、物質に関する探究心と臨時的な考察能力を身に付ける。
5. 「一般教養科目」では、教員、研究者、企業人、公務員等様々な学生の進路に対応できるように、多彩なカリキュラムと時間割を備え、グローバル化・ユニバーサル化に対応できる幅広い教養を持つ人材を育成するとともに、厳密な論理的思考力を身に付け、情報の収集・発表の方法を学び、多様な価値観を持つ他者と協働で物事を進められるようになることを目標とする履修科目を配置する。
6. 英語教育においては、少人数クラスや習熟度別クラスを取り入れ、学習効果を高める主体的な学びを導く教育を行う。
7. 「一般教養科目」、「基礎科目」、「専門科目」では、各専門分野に対応したキャリア教育、微履修を奨励する科目を配置する。
8. 学士課程の集大成として、最終年に卒業研究を配置し、最先端の化学を卒業実験等を通じて実践的に身に付けさせる。また、社会人学生など時間的に実践的な研究が困難な学生に対しては、ゼミ形式の卒業研究科目を配置することによって、化学が関わる幅広い内容を身に付ける場を設ける。
9. 理系教員を目指す学生のために、理学部第一部との授業相互兼任入れ制度を導入し、4年間で教職課程を履修できるカリキュラムを実施し、未来の教育者をバックアップするため、卒業後の再教育の場を提供する。
10. 社会人学生も4年間で卒業が可能となるような時間割編成とする。
11. 大学院科目の先行履修も可能とすることにより、進学意欲の高い学生の要望にも答えられる形にする。

